

## 第3学年 算数科（少人数）学習指導案

### 1 単元名 たし算とひき算の筆算

### 2 単元について

#### <主張点>

計算棒などの教具を位の部屋で動かすことを通して、3位数の加法や減法の筆算の仕方を創り出すことを大切にす。そして、形式的な計算処理のみできるだけでなく、その背後にある十進位取り記数法の仕組みを理解し、相手に伝える力を育てたい。

第3学年2クラスを習熟度別の3コースに分け、子どもの実態（到達度、学習時間等）に応じたきめ細かな支援・援助活動を行うことで3位数の加法や減法の筆算の仕組みが理解できるようにする。3コースに分けることで特に発展的な学習をすすめる児童（4位数でもできるか、虫食い計算の に数をいろいろあてはめて考えるなど）に対応できる。

2学期制実施に伴って生まれたゆとりの時間を本単元に1時間多く配当し、じっくりとわかる過程を重視した学習が展開できるように、単元構成を工夫した。つまり、繰り上がりのある問題を考える時間を多く配当した重点単元を展開することで、基礎・基本の定着を図ることができると考えた。

#### (1) 本単元における基礎・基本

本単元における基礎・基本は、「3位数の加法・減法の筆算の仕組みを理解し、筆算形式で正確に処理すること」である。ここで大切にしたいことは、繰り上がりや繰り下がり処理を計算棒などの教具を位の部屋で動かすことを通して、各位には0から9までしか入らないこと、10になった瞬間に1つ大きな位に入ることといった十進位取り記数法の理解を深めることである。

いつまでも、計算棒などの教具に頼るのではなく、筆算形式のよさ（仕組みを簡単に表し、計算しやすいよさ）に気づく。そして、筆算によって答えを正確に求めることができる力をつけたい。つまり、十進位取り記数法の理解を深めた上での計算力（筆算）をつけたいと考える。

#### (2) 個に応じた学習と支援・援助活動の工夫

単元展開にあたって、基本的には、模型や計算棒などの教具を使って3位数の加法・減法の筆算の仕組みを考え、位の部屋を使って自分の考えを説明したり、筆算形式に表して答えを求めたりする学習を展開する。ただ、具体から抽象への思考にかかる時間をコースによって個によって変化させ個に応じた学習を展開する。本年度、2学期制実施によって生まれたゆとりの時間を本単元に1時間加える（重点単元とする）ことで、よりきめ細かい指導ができるように単元構成を工夫した。

つまり、繰り上がりや2回ある加法の筆算の仕方を考える時間をプラス1時間とし、虫食い算に取り組む「やってみよう」の1時間を繰り下がりや2桁におよぶ筆算の仕方を考える時間といっしょに扱うことにした。

本時では、2位数の加法・減法に関して十分理解できていない児童が多いわくわくコースでは教師とともにじっくり考える時間を確保し、お金の模型やパソコンなどを使って3位数の加法や減法の筆算の仕組みを理解できるようにする。2位数の加法・減法に関してほぼ理解できているが説明は不十分である児童が多いぐんぐんコースでは計算棒や自作の教具を使って3位数の加法や減法の筆算の仕組みを位取り板や図を使って説明できるようにする。2位数の加法・減法に関して自分なりに説明できる児童が多いチャレンジコースでは自分の力で課題を解決した後、4位数の加法・減法の筆算の仕組みも考えたり、虫食い算でいろいろな数値を当てはめる問題にも挑戦したりする。このように個に応じた学習を展開することで、児童が満足感や充実感をもって学習できるように、教師の支援・援助活動も工夫した。

### 3 単元の目標

筆算のよさ（3位数でも正確に計算できるよさ）がわかり、進んで活用しようとする。

（算数への関心・意欲・態度）

既習の2位数の加法・減法の筆算の仕方をもとに、3位数の加法・減法の筆算の仕方を考えることができる。

（数学的な考え方）

3位数の加法・減法の筆算を、繰り上がりや繰り下がりに気をつけて正確に計算できる。

（数量や図形についての表現・処理）

繰り上がりや繰り下がり処理を通して、十進位取り記数法の理解を深める。

（数量や図形についての知識・理解）

4 単元計画（全8時間，本時7 / 8時間）

	主な学習内容	主な学習活動	
		わくわく<補充> : ぐんぐん<充実> : チャレンジ<発展>	
第1時	3位数の加法，減法にはくり上がりやくり下がりのあるものとないものがある	$(3\text{位数}) + (3\text{位数}), (3\text{位数}) - (3\text{位数})$ の問題をつくり，くり上がりがあるもの（1回，2回），くり上がりがないもの，くり下がりがあるもの（1回，2回），くり下がりがないもの，空位があるものなどに仲間分けして学習計画を立てる。	
第2時	$(\text{何十})(\text{何百})$ の加法や減法は10や100を単位にして考えると1位数の計算に帰着できる。	$(\text{何十}) \pm (\text{何十}), (\text{何百}) \pm (\text{何百})$ の計算方法をお金や図などを使って考える。	$(\text{何千}) \pm (\text{何千})$ の計算方法も考える。
第3・4時	3位数同士の加法は2位数の時と同じように位ごとに計算し，10をこえると次の位に1繰り上げるとできる。  筆算の仕組みは，計算棒やお金，図などを使って説明するとよくわかる。	くり上がりがある3位数の加法の筆算の仕方をパソコンを見ながら考える。 くり上がり1，2回ある3位数の加法の筆算の仕方を計算棒やお金，図などを使って説明する。 空位のある3位数の加法の筆算の仕方を考える。	3位数の加法の筆算の虫食い問題に挑戦する。
第5・6・7・8時 本時7 / 8	3位数同士の減法は2位数の時と同じように位ごとに計算し，引けないときは1つ上または，もう1つ上の位から借りてくるとできる。  筆算の仕組みは，計算棒やお金，図などを使って説明するとよくわかる。	くり下がりがある3位数の減法の筆算の仕方をパソコンを見ながら考える。 くり下がり1，2回ある3位数の減法の筆算の仕方を数え棒やお金，図などを使って説明する。 被減数に空位のある3位数の減法の筆算の仕方を計算棒やお金，図などを使って説明する。	3位数の減法の筆算の虫食い問題に挑戦する。